

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成27年3月1日
(第92期) 至 平成28年2月29日

株式会社歌舞伎座

(E04606)

第92期（自平成27年3月1日 至平成28年2月29日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社歌舞伎座

目 次

	頁
第92期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	5
4 【関係会社の状況】	6
5 【従業員の状況】	6
第2 【事業の状況】	7
1 【業績等の概要】	7
2 【営業実績】	8
3 【対処すべき課題】	8
4 【事業等のリスク】	8
5 【経営上の重要な契約等】	9
6 【研究開発活動】	9
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	9
第3 【設備の状況】	10
1 【設備投資等の概要】	10
2 【主要な設備の状況】	10
3 【設備の新設、除却等の計画】	10
第4 【提出会社の状況】	11
1 【株式等の状況】	11
2 【自己株式の取得等の状況】	13
3 【配当政策】	14
4 【株価の推移】	14
5 【役員の状況】	15
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	17
第5 【経理の状況】	21
1 【連結財務諸表等】	22
2 【財務諸表等】	46
第6 【提出会社の株式事務の概要】	56
第7 【提出会社の参考情報】	57
1 【提出会社の親会社等の情報】	57
2 【その他の参考情報】	57
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	58
監査報告書	
内部統制報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成28年5月26日

【事業年度】 第92期(自平成27年3月1日至平成28年2月29日)

【会社名】 株式会社歌舞伎座

【英訳名】 KABUKI-ZA CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大谷信義

【本店の所在の場所】 東京都中央区銀座四丁目12番15号

【電話番号】 直通03(3541)5572

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務経理担当 池田喜実

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区銀座四丁目12番15号

【電話番号】 直通03(3541)5572

【事務連絡者氏名】 代表取締役専務経理担当 池田喜実

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第88期	第89期	第90期	第91期	第92期
決算年月	平成24年 2月	平成25年 2月	平成26年 2月	平成27年 2月	平成28年 2月
売上高 (千円)	792,927	842,544	5,447,154	4,530,146	4,189,262
経常利益又は 経常損失(△) (千円)	△246,693	△305,951	880,230	485,590	431,642
当期純利益又は 当期純損失(△) (千円)	△168,801	△206,292	548,244	294,377	192,752
包括利益 (千円)	260,654	466,378	196,337	1,133,785	△200,110
純資産額 (千円)	8,591,357	8,989,715	9,116,257	10,187,364	9,924,238
総資産額 (千円)	24,098,930	27,800,131	27,242,020	27,986,464	26,396,401
1株当たり純資産額 (円)	709.38	742.39	752.96	841.46	819.76
1株当たり当期純利益 又は1株当たり当期純 損失(△) (円)	△13.94	△17.04	45.28	24.31	15.92
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	35.7	32.3	33.5	36.4	37.6
自己資本利益率 (%)	△2.0	△2.3	6.1	3.0	1.9
株価収益率 (倍)	—	—	107.1	203.4	314.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	5,774,109	△1,267,481	1,921,157	742,242	487,784
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△5,516,480	△1,403,762	△842,359	△181,016	△85,314
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△361,366	2,633,119	△296,040	△683,452	△683,879
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	644,509	606,385	1,389,142	1,266,916	985,506
従業員数 〔外、平均臨時 雇用者数〕 (名)	33 〔12〕	46 〔22〕	59 〔128〕	63 〔109〕	62 〔93〕

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、平成24年2月期から平成25年2月期までは1株当たり当期純損失であり、潜在株式がないため記載しておりません。また、平成26年2月期から平成28年2月期までは、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第88期	第89期	第90期	第91期	第92期
決算年月	平成24年 2月	平成25年 2月	平成26年 2月	平成27年 2月	平成28年 2月
売上高 (千円)	494,665	498,415	2,011,411	2,015,835	2,011,912
経常利益又は 経常損失(△) (千円)	△178,418	△209,566	550,310	448,058	423,639
当期純利益又は 当期純損失(△) (千円)	△133,091	△137,405	343,733	279,787	283,922
資本金 (千円)	2,365,180	2,365,180	2,365,180	2,365,180	2,365,180
発行済株式総数 (株)	12,170,000	12,170,000	12,170,000	12,170,000	12,170,000
純資産額 (千円)	7,477,865	7,933,891	7,862,626	8,904,469	8,739,784
総資産額 (千円)	22,896,192	26,570,952	25,477,462	26,265,233	24,859,261
1株当たり純資産額 (円)	617.44	655.20	649.42	735.49	721.92
1株当たり配当額 (内1株当たり 中間配当額) (円)	5.00 (—)	5.00 (—)	5.00 (—)	5.00 (—)	5.00 (—)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失(△) (円)	△10.99	△11.35	28.39	23.11	23.45
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	32.7	29.9	30.9	33.9	35.2
自己資本利益率 (%)	△1.8	△1.8	4.4	3.3	3.2
株価収益率 (倍)	—	—	170.8	214.0	213.2
配当性向 (%)	—	—	17.6	21.6	21.3
従業員数 (名)	11	10	11	11	12

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、平成24年2月期から平成25年2月期までは1株当たり当期純損失であり、潜在株式がないため記載しておりません。また、平成26年2月期から平成28年2月期までは、潜在株式がないため記載しておりません。

3 従業員数は、就業人員数を表示しております。

2 【沿革】

歌舞伎座は昭和20年5月東京大空襲により焼失しましたが、戦後歌舞伎座復興に際し新たに当社株式会社歌舞伎座が設立され、敷地は所有者松竹株式会社より借り受け、劇場は演劇の興行を行う松竹株式会社に、また劇場内の食堂売店等を当社の子会社である歌舞伎座事業株式会社(現 歌舞伎座サービス株式会社)にそれぞれ賃貸しておりました。平成22年4月末日に建替えのため閉場しておりました劇場歌舞伎座は、平成25年2月末日に竣工を迎えることができ、3月1日に木挽町広場オープン、4月には新劇場を開場いたしました。当社の設立からの経過の概要は次のとおりであります。

昭和24年11月	株式会社歌舞伎座設立(資本金1億5千万円)
昭和25年12月	歌舞伎座竣工
昭和26年1月	歌舞伎座を開場
昭和27年7月	東京証券取引所株式上場
昭和29年3月	株式会社歌舞伎座サービス設立
昭和29年8月	株式会社歌舞伎座サービスを歌舞伎座サービス株式会社に社名変更
昭和31年3月	映画製作事業を開始
昭和33年5月	株式会社戎橋劇場(大阪)設立
昭和33年11月	テレビ映画部新設
昭和35年6月	松竹豊橋会館株式会社(愛知)設立
昭和36年3月	株式会社文楽座を吸収合併し、当社大阪営業所となる
昭和38年3月	歌舞伎座サービス株式会社を松竹豊橋会館株式会社が吸収合併し、歌舞伎座事業株式会社に社名変更(旧松竹豊橋会館株式会社が豊橋営業所となる)
昭和38年8月	文楽座を朝日座と改称
昭和48年10月	表新館竣工
昭和51年8月	歌舞伎会館の大半を取り壊し、歌舞伎座ビル竣工
昭和59年3月	朝日座閉鎖し、譲渡
昭和59年8月	大船に土地購入
昭和60年5月	大船セントラル駐車場オープン
昭和60年8月	テレビ映画の製作を一時的に見合わせる
昭和61年2月	大船に土地購入(昭和59年8月付取得した土地の隣接地)
昭和61年3月	株式会社戎橋劇場は同劇場入居先の改築工事の為、賃貸契約を解約し、その後所在地を東京に移転
昭和61年9月	大船セントラル駐車場を一時縮小し総合住宅展示場として賃貸
平成2年9月	東新館ビル竣工
平成8年3月	大船セントラル駐車場を駐車場用地及び映画撮影用のオープンセット用地として賃貸
平成11年11月	大船セントラル駐車場と松竹株式会社所有の松竹ショッピングセンター内三越棟の土地の交換を行い、それに伴う建物を取得
平成12年5月	歌舞伎座事業株式会社の豊橋営業所閉鎖
平成12年11月	歌舞伎座事業株式会社の閉鎖した豊橋営業所の土地を譲渡
平成14年2月	歌舞伎座の建物が登録有形文化財となる(平成22年12月登録抹消)
平成17年9月	株式会社戎橋劇場が社名を歌舞伎座サービス株式会社(現・連結子会社)に変更
平成22年4月	劇場建替えのため、4月末日をもって閉場
平成22年5月	劇場歌舞伎座、表新館、東新館及び歌舞伎座ビル取り壊し
平成23年3月	歌舞伎座サービス株式会社と歌舞伎座事業株式会社が合併し、歌舞伎座サービス株式会社が存続会社となる
平成25年2月	劇場歌舞伎座竣工
平成25年3月	木挽町広場(地下広場)オープン
平成25年4月	劇場歌舞伎座開場

3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び連結子会社である歌舞伎座サービス㈱で構成され、その他の関係会社である松竹㈱のグループにおいて不動産の賃貸及び食堂・売店等の経営等を主な事業内容としております。

当社グループの当該事業における位置付けは以下のとおりであります。

なお、事業の種類別セグメントと同一の区分であります。

(1) 不動産賃貸事業

当社は不動産を所有し、これを賃貸しております。

また、歌舞伎座サービス㈱においても貸室の賃貸をしております。

なお、劇場歌舞伎座の劇場の敷地は松竹㈱等より一部賃借しており、同敷地について共同事業主であるKSビルキャピタル特定目的会社へ賃貸しております。また、当社は劇場を松竹㈱に賃貸しております。

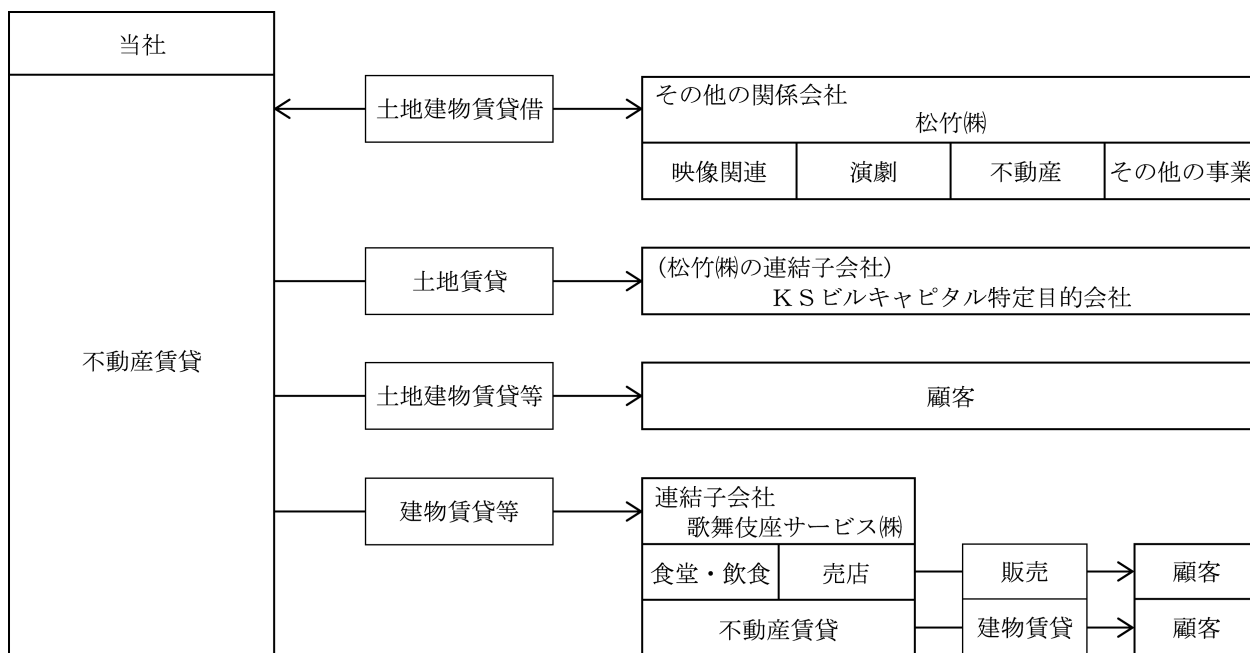
(2) 食堂・飲食事業

歌舞伎座サービス㈱は、主に劇場内及び地下広場において食堂・飲食店舗を営業しております。

(3) 売店事業

歌舞伎座サービス㈱は、主に劇場内及び地下広場において歌舞伎関連商品を販売する売店を営業しております。

事業の系統図は以下のとおりであります。



関係会社は以下のとおりであります。

連結子会社

歌舞伎座サービス㈱

その他の関係会社

松竹㈱

(その他の関係会社の子会社)

KSビルキャピタル特定目的会社)

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金(千円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合 (%)	関係内容
(連結子会社) 歌舞伎座サービス㈱ (注) 2、3	東京都中央区	40,000	食堂・飲食事業 売店事業 不動産賃貸事業	所有 100.0	役員の兼任 3人
(その他の関係会社) 松竹㈱ (注) 4					

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。

2 歌舞伎座サービス㈱は、特定子会社に該当し、売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。その主要な損益情報等は下記のとおりであります。

売上高	2,363,039千円
経常利益	18,436千円
当期純損失	80,711千円
純資産額	1,260,080千円
総資産額	1,610,483千円

3 歌舞伎座サービス㈱は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社ではありません。

4 その他の関係会社の松竹㈱は、有価証券報告書を提出している会社であり、関係会社の状況については、第

5 [経理の状況] 1 [連結財務諸表等] (1) [連結財務諸表] [注記事項] [関連当事者情報] において記載しているため、記載を省略しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

(平成28年2月29日現在)

セグメントの名称	従業員数(名)
不動産賃貸事業	3
食堂・飲食事業	30 (50)
売店事業	10 (43)
全社(共通)	19
合計	62 (93)

(注) 1 従業員数は、当社グループから当社グループ外への出向者を除いた就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

(平成28年2月29日現在)

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
12	49.4	13.2	6,507

セグメントの名称	従業員数(名)
不動産賃貸事業	3
全社(共通)	9
合計	12

(注) 1 従業員数は、当社から他社への出向者を除いた就業人員であります。

2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

3 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(3) 労働組合の状況

当社には労働組合があり、映画演劇労働組合連合会に加盟しております。

当社と労働組合との関係は良好であり特記すべき事項はありません。なお、平成28年2月末日現在の組合員は8名(当社から他社への出向者を含む)であります。

連結子会社である歌舞伎座サービス㈱には、労働組合はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府・日銀による経済対策・金融政策の効果により、企業収益や雇用・所得環境の改善がみられ、景気は緩やかな回復基調が続いていたものの、中国をはじめとするアジア新興国等の景気下振れによる企業収益への影響や個人消費の伸び悩み等先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような情勢のもと、劇場歌舞伎座及び木挽町広場(地下広場)が3年目を迎えた当社グループにおきましては、当連結会計年度の売上高は4,189,262千円(前期比7.5%減)、営業利益は421,705千円(前期比12.1%減)、経常利益は431,642千円(前期比11.1%減)となり、当期純利益は192,752千円(前期比34.5%減)となりました。

これを事業のセグメント別にみると、不動産賃貸事業につきましては、売上高が1,879,001千円で10,421千円(前期比0.6%)の増収となったものの、土地の固定資産税評価額の上昇により固定資産税・都市計画税が増加したこと等により、セグメント利益は767,941千円で20,504千円(前期比2.6%)の減益となりました。

食堂・飲食事業につきましては、売上高は950,011千円で53,080千円(前期比5.3%)の減収、セグメント損失は27,855千円(前期は66,820千円のセグメント損失)となりました。また、所有する固定資産について、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、減損損失119,282千円を特別損失に計上しました。

売店事業につきましては、売上高は1,360,249千円で298,224千円(前期比18.0%)の減収、セグメント利益は150,605千円で70,644千円(前期比31.9%)の減益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度におけるキャッシュ・フローは、営業活動により487,784千円増加し、投資活動により85,314千円減少し、財務活動により683,879千円減少しました。その結果、現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、281,410千円減少となり、当連結会計年度末には985,506千円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果から増加した資金は、487,784千円となり、前連結会計年度との比較では254,457千円の減少となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益の減少173,231千円、その他に含まれる未払金の減少122,002千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、85,314千円となり、前連結会計年度との比較では95,701千円の支出の減少となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、683,879千円となりました。これは主に、長期借入金の返済による支出617,000千円並びに配当金の支払額59,583千円であります。

2 【営業実績】

当連結会計年度における売上高実績をセグメントごとに示すと次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(千円)	割合(%)	前年同期比(%)
不動産賃貸事業	1,879,001	44.8	0.6
食堂・飲食事業	950,011	22.7	△5.3
売店事業	1,360,249	32.5	△18.0
計	4,189,262	100.0	△7.5

(注) 1 主な相手先別売上高実績及び総売上高に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	売上高(千円)	割合(%)	売上高(千円)	割合(%)
松竹㈱	952,893	21.0	944,655	22.5
K Sビルキャピタル特定目的会社	719,331	15.9	719,331	17.2

2 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループは、劇場歌舞伎座及び付帯施設を集客力のある魅力的なものとするため、「GINZA KABUKIZA」の各種施設を利用した催事企画等に積極的に取り組んでまいります。

不動産賃貸事業は、劇場建物や設備の安全性を高め、店舗テナントの期待に応えられる施設運営を進めてまいります。

食堂・飲食事業は、歌舞伎座厨房伝統の味を継承しながら、組織や製造工程を見直すことによりコスト削減を推し進めます。また、劇場内の食堂運営、劇場内及び木挽町広場(地下広場)での折詰弁当の販売に加え、仕出し料理のケータリング等も充実させ、利益の向上に貢献させてまいります。

売店事業は、「歌舞伎座ブランド」オリジナル商品の企画・開発を進めてまいります。また、インターネットショップ『かお店』及び百貨店等の催事による商品販売の継続、所有商標等の知的財産を最大限活用して将来に繋がるようなサービスをさらに充実するよう努めてまいります。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

当社グループはこれらのリスクを認識したうえで、その発生の回避及び発生時の適切な対応に向けて努力していく所存であります。

なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 自然災害・事故等の発生について

当社グループは不動産を保有し、賃貸しております。そのため、万一大規模な自然災害・事故等の予期せぬ事態が発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(2) 衛生管理について

当社グループは、飲食サービスを提供しております。当社グループでは、衛生管理の重要性を十分認識した上で、従業員に対して衛生管理の指導を徹底しておりますが、万一食中毒等の重大な衛生問題が発生した場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(3) 不動産賃貸契約の解約について

当社グループは不動産を保有し、各テナントと賃貸借契約を交わしております。テナントの財政状態の悪化、移転等による契約の解約等が行われた場合、新規テナントの決定までの賃貸料収入の減少または賃料相場の下落等で、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

(4) 松竹株式会社への依存について

当社グループは劇場を松竹㈱に賃貸し、同社が演劇興行を行っておりますが、不慮の事故等により興行が中止になった場合等は、当社グループの財政状態及び経営成績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

当社は、松竹㈱と次のとおり劇場歌舞伎座賃貸借契約を締結しております。

契約先	契約の内容	契約年月日	契約期間
松竹㈱	劇場賃貸借契約	平成25年2月26日	平成25年3月1日から平成35年2月末日まで(10年間)

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当社グループにおける財政状態及び経営成績の分析は、以下のとおりであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般的に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。なお、連結財務諸表の作成にあたり、見積りが必要な事項につきましては、合理的な基準に基づき、会計上の見積りを行っております。

詳細につきましては、第5〔経理の状況〕 1〔連結財務諸表等〕 (1)〔連結財務諸表〕〔注記事項〕〔連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項〕に記載のとおりであります。

(2) 財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,590,063千円減少し26,396,401千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ273,858千円減少し1,109,117千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少281,410千円であります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ1,316,204千円減少し25,287,283千円となりました。主な要因は、設備投資による固定資産の増加16,471千円及び減価償却等による減少557,425千円、固定資産の減損による減少119,282千円並びに投資有価証券を時価評価したことによる減少704,505千円であります。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ1,326,937千円減少し16,472,162千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ191,676千円減少し1,378,952千円となりました。主な要因は、未払金の減少122,642千円、未払消費税等の減少41,992千円及び買掛金の減少28,507千円であります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ1,135,260千円減少し15,093,209千円となりました。主な要因は、流動負債への振替による長期借入金の減少617,000千円及び長期前受金の減少292,809千円並びに投資有価証券を時価評価したこと等による繰延税金負債の減少225,511千円であります。

当連結会計年度末の純資産の部の合計は、前連結会計年度末に比べ263,126千円減少し9,924,238千円となりました。主な要因は、投資有価証券を時価評価したことによるその他有価証券評価差額金の減少392,863千円及び利益剰余金の増加132,218千円であります。

(3) 経営成績の分析

売上高は、前連結会計年度に比べ340,883千円減少し、4,189,262千円となりました。これは主に、劇場歌舞伎座及び木挽町広場(地下広場)がオープン3年目を迎え、売店での土産品購買が減少傾向にあること等によるものであります。

売上原価は、前連結会計年度に比べ295,769千円減少し、3,248,611千円となりました。不動産賃貸事業におきましては、主に土地の固定資産税・都市計画税が当連結会計年度に増加したことにより、前連結会計年度に比べ15,266千円増加しました。食堂・飲食事業及び売店事業におきましては、売上減少に伴い、前連結会計年度に比べそれぞれ93,697千円及び217,338千円減少しました。また、販売費及び一般管理費は、12,794千円増加し518,945千円、営業利益は、57,908千円減少し421,705千円となりました。

営業外収益は、3,483千円減少し33,222千円となりました。

営業外費用は、長期借入金の約定返済による支払利息の減少等により、7,443千円減少し23,284千円となり、その結果、経常利益は、53,948千円減少し431,642千円となりました。

なお、当期純利益は、特別損失として減損損失119,282千円を計上したこと及び法人税等合計119,607千円により、前連結会計年度に比べ101,625千円減少し、192,752千円となりました。

(4) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況の分析につきましては、第2〔事業の状況〕 1〔業績等の概要〕 (2) キャッシュ・フローの状況 に記載のとおりであります。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資の総額は、16,471千円であり、その主なものは劇場等についての改修改良工事であります。また、セグメントごとの設備投資は、不動産賃貸事業9,786千円、食堂・飲食事業3,103千円、売店事業404千円及び全社3,176千円であります。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

(平成28年2月29日現在)

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員 数(名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
東京都中央区	不動産 賃貸事業	劇場	10,257,238	161,030	3,963,374 (4,060.46) <3,745,504>	14,200	47,836	14,443,681	3
神奈川県鎌倉市	〃	貸店舗	201,402 <201,402>	—	1,690,658 (6,211.95)	—	—	1,892,061	—

- (注) 1 帳簿価額には消費税等は含まれておりません。
 2 帳簿価額のうち「その他」はすべて工具、器具及び備品であります。
 3 < >内数字は連結会社以外への賃貸であります。
 4 提出会社においては、上記の他に連結会社以外から劇場等の敷地として土地を賃借しておりその内容は、次のとおりであります。

事業所名(所在地)	セグメントの名称	賃借面積(㎡)	年間賃借料(千円)
東京都中央区	不動産賃貸事業	2,891.73	202,416

(2) 国内子会社

(平成28年2月29日現在)

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	その他	合計	
歌舞伎座 サービス 株式会社	東京都 板橋区	不動産 賃貸事業	貸店舗	29,817	—	335,424 (806.11)	—	365,241	—
	東京都 港区	〃	賃貸住宅	94,143	—	128,412 (91.01)	182	222,738	—
	東京都 足立区	〃	〃	35,793	—	7,097 (300.91)	707	43,599	—
	千葉県 市川市	〃	〃	25,482	—	3,889 (267.18)	75	29,447	—
	東京都 中央区	食堂・飲食 事業	店舗等	0	0	—	0	0	30 [50]
		売店事業	店舗等	24,373	—	—	22,842	47,216	10 [43]

- (注) 1 帳簿価額には消費税等は含まれておりません。
 2 帳簿価額のうち「その他」はすべて工具、器具及び備品であります。
 3 従業員数欄の[外書]は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	28,000,000
計	28,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成28年2月29日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年5月26日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,170,000	12,170,000	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	12,170,000	12,170,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年3月1日～ 平成19年2月28日	180,000	12,170,000	394,220	2,365,180	393,905	2,405,394

(注) 発行済株式総数、資本金及び資本準備金の増加は、新株予約権の行使によるものであります。

(6) 【所有者別状況】

(平成28年2月29日現在)

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							計	単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他		
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	10	8	123	15	—	3,832	3,988	—
所有株式数 (単元)	—	1,518	82	4,287	58	—	5,639	11,584	586,000
所有株式数 の割合(%)	—	13.10	0.71	37.01	0.50	—	48.68	100.00	—

(注) 期末現在の自己株式数は63,714株で「個人その他」に63単元「単元未満株式の状況」に714株含めて記載しております。なお、自己株式63,714株は株主名簿記載上の株式数であり期末現在の実質的な所有株式数も63,714株であります。

(7) 【大株主の状況】

(平成28年2月29日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
松竹株式会社	東京都中央区築地4-1-1	1,665	13.68
清水建設株式会社	東京都中央区京橋2-16-1	1,017	8.35
みずほ信託銀行株式会社 退職給 付信託 松竹口 再信託受託者 資産管理サービス 信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1-8-12 晴海アイランドトリトンスクエア オフィスタワーZ棟	446	3.66
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社 (退職給付信託 松竹口)	東京都港区浜松町2-11-3	446	3.66
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区大手町1-5-5	230	1.88
株式会社TBSテレビ	東京都港区赤坂5-3-6	150	1.23
株式会社フジ・メディア・ホール ディングス	東京都港区台場2-4-8	150	1.23
日本テレビ放送網株式会社	東京都港区東新橋1-6-1	150	1.23
株式会社三越伊勢丹	東京都新宿区新宿3-14-1	115	0.94
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	115	0.94
計	—	4,484	36.85

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

(平成28年2月29日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 63,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,521,000	11,521	—
単元未満株式	普通株式 586,000	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	12,170,000	—	—
総株主の議決権	—	11,521	—

(注) 単元未満株式には当社所有の自己保有株式714株が含まれております。

② 【自己株式等】

(平成28年2月29日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 榊歌舞伎座	中央区銀座4-12-15	63,000	—	63,000	0.52
計	—	63,000	—	63,000	0.52

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	495	2,481
当期間における取得自己株式	424	2,109

(注) 当期間における取得自己株式には、平成28年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(単元未満株式の買増請求による売渡)	—	—	—	—
保有自己株式数	63,714	—	64,138	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成28年5月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び買増請求による売渡しによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は配当については、安定配当の維持、継続することを基本方針と考えております。また、当社は、会社法第454条第5項に規定する中間配当を行うことができる旨を定款で定め、期末配当とあわせて年2回の配当を行うことを基本的な方針としております。なお、配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

当事業年度の期末配当は、上記の方針とともに今後の経営環境を勘案のうえ1株につき5円を実施することに決定いたしました。

内部留保金の使途については、設備投資等に充当し、なお一層の経営基盤の強化充実を図っていく所存であります。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当金(円)
平成28年5月26日定時株主総会決議	60,531	5

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第88期	第89期	第90期	第91期	第92期
決算年月	24年2月	25年2月	26年2月	27年2月	28年2月
最高(円)	4,200	5,200	5,090	5,130	5,250
最低(円)	3,285	3,700	4,670	4,730	4,875

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6箇月間の月別最高・最低株価】

月別	27年9月	10月	11月	12月	28年1月	2月
最高(円)	4,960	5,090	5,070	5,010	5,030	5,250
最低(円)	4,905	4,920	4,980	4,985	4,990	4,950

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

男性12名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	—	大谷 信義	昭和20年6月18日	昭和43年6月 昭和54年5月 昭和55年5月 昭和57年9月 昭和59年5月 昭和59年5月 昭和59年5月 昭和60年6月 平成10年1月 平成16年5月 平成18年4月 平成19年2月	松竹㈱入社 当社取締役 松竹㈱取締役 松竹㈱常務取締役 松竹㈱専務取締役 当社代表取締役社長(現任) 歌舞伎座事業㈱代表取締役社長 ㈱戎橋劇場(現・歌舞伎座サービス㈱) 代表取締役 松竹㈱代表取締役社長 松竹㈱代表取締役副会長 歌舞伎座サービス㈱取締役(現任) 松竹㈱代表取締役会長(現任)	(注)3	40
代表取締役 専務	経理担当	池田 喜実	昭和26年2月6日	昭和52年11月 平成9年6月 平成14年5月 平成16年4月 平成18年9月 平成19年5月 平成25年5月 平成27年5月	当社入社 当社経理部長 当社取締役経理担当経理部長 歌舞伎座舞台㈱取締役(現任) 歌舞伎座事業㈱監査役 歌舞伎座サービス㈱監査役 当社代表取締役専務経理担当(現任) 歌舞伎座サービス㈱取締役(現任)	(注)3	1
常務取締役	企画開発 担当企画 開発部長	岩崎 敏久	昭和32年8月25日	昭和55年4月 平成18年4月 平成21年5月 平成25年5月 平成26年5月 平成27年5月	松竹㈱入社 松竹㈱経理部長 松竹㈱執行役員経理部長 歌舞伎座サービス㈱常務取締役(現任) 松竹㈱総務部付向当社取締役企画開発 担当企画開発部長 当社常務取締役企画開発担当企画開発部 長(現任)	(注)3	—
取締役	総務担当 総務部長	近藤 諭司	昭和30年1月3日	平成11年10月 平成17年5月 平成21年7月 平成25年5月	当社入社 当社総務部次長 当社総務部長 当社取締役総務担当総務部長(現任)	(注)4	1
取締役	企画開発 副担当	野間 一平	昭和47年2月9日	平成6年4月 平成21年7月 平成21年9月 平成25年5月 平成26年5月 平成27年4月 平成28年5月	松竹㈱入社 松竹㈱歌舞伎座開発準備室長 松竹㈱歌舞伎座開発推進室長 当社取締役企画開発担当 松竹㈱不動産部副部長、 当社取締役企画開発副担当(現任) 松竹㈱演劇開発企画部長・不動産部ゼネラ ルマネジャー 松竹㈱執行役員 演劇開発企画部長・不動産 部ゼネラルマネジャー(現任)	(注)4	—
取締役	—	岡崎 哲也	昭和36年1月24日	昭和59年4月 平成13年5月 平成17年10月 平成18年4月 平成18年8月 平成19年5月 平成21年5月 平成21年7月 平成22年5月 平成24年5月 平成25年1月 平成26年5月 平成27年5月	松竹㈱入社 松竹㈱演劇部第一演劇製作室長(次長待遇) 松竹㈱演劇部副部長 歌舞伎座舞台㈱取締役 松竹㈱演劇製作部長 当社取締役(現任) 松竹㈱執行役員演劇製作部長 松竹㈱執行役員演劇製作部担当 松竹㈱執行役員演劇製作部担当演劇開発 企画部担当 松竹㈱取締役演劇本部演劇製作部門担当 演劇開発企画部門担当 松竹㈱取締役演劇副部長演劇製作部門 担当演劇開発企画部門担当 松竹㈱常務取締役秘書室・経営企画部グル ープ企画室担当・経営企画部グローバル戦 略開発室副担当演劇本部顧問 松竹㈱常務取締役管理副部長・秘書室・ 経営企画部グループ企画室担当・経営企画 部グローバル戦略開発室副担当演劇本部顧 問(現任)	(注)4	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役	—	小平健	昭和26年12月31日	昭和49年4月 平成11年11月 平成12年6月 平成17年6月 平成20年6月 平成26年6月 平成27年5月	日本長期信用銀行入行 ㈱ホテルニューオータニ(現・㈱ニューオータニ)東京副総支配人 マネージメントサービス部長 ニューオータニ美術館担当部長 ㈱ニューオータニ取締役マネージメントサービス部長 ホテルニューオータニ東京副総支配人 ㈱大谷工業代表取締役副会長 ㈱テーオーシー取締役ビル施設管理部門安全管理室担当 ㈱テーオーシー取締役(現任) 当社取締役(現任)	(注)4	0
取締役	—	松平誠	昭和22年2月24日	昭和44年4月 平成8年4月 平成11年4月 平成17年4月 平成19年6月 平成20年4月 平成21年4月 平成22年4月 平成25年8月 平成28年5月	日本郵船㈱入社 日本郵船㈱本店業務企画部部長 郵船クルーズ㈱取締役ホテル部長 郵船クルーズ㈱社長 (社)日本外航客船協会会長 郵船クルーズ㈱会長 郵船クルーズ㈱相談役 郵船クルーズ㈱顧問 郵船クルーズ㈱顧問退任 当社取締役(現任)	(注)3	—
常勤監査役	—	安形泰介	昭和30年5月17日	昭和57年12月 平成15年10月 平成23年1月 平成25年6月 平成26年5月 平成27年5月	松竹㈱入社 松竹㈱映像統括スタッフ(次長待遇) 松竹㈱経営企画部広報室長 松竹㈱経営企画部長広報室長 松竹㈱経営企画部松竹創業120周年プロジェクトチーム担当部長広報室長 松竹㈱経営企画部ゼネラルマネージャー、 当社常勤監査役(現任)	(注)6	—
監査役	—	井ノ上正男	昭和33年11月9日	昭和61年4月 昭和63年3月 昭和63年4月 平成11年4月 平成21年5月	最高裁判所司法研修所入所 同所卒業 弁護士登録(大高法律事務所) 当社顧問弁護士 当社監査役(現任)	(注)5	—
監査役	—	稲垣文美	昭和20年11月3日	昭和43年3月 昭和63年5月 平成6年6月 平成13年2月 平成15年2月 平成23年5月	㈱三菱銀行入行 ㈱三菱銀行中野支店長 ㈱講談社入社経営企画室次長 ㈱講談社監査役 ㈱講談社常任監査役 当社監査役(現任)	(注)6	—
監査役	—	大谷二郎	昭和29年9月14日	昭和53年4月 平成12年5月 平成18年4月 平成20年3月 平成20年4月 平成22年7月 平成27年5月	松竹㈱入社 松竹第一興行㈱取締役 松竹衣裳㈱取締役 ㈱松竹デジタルセンター取締役 ㈱衛星劇場(現・松竹ブロードキャスティング㈱)監査役 松竹ブロードキャスティング㈱取締役(現任) 当社監査役(現任)	(注)6	22
計							65

- (注) 1 取締役岡崎哲也・小平健・松平誠は、社外取締役であります。
- 2 監査役安形泰介・井ノ上正男・稲垣文美は、社外監査役であります。
- 3 取締役大谷信義・池田喜実・岩崎敏久・松平誠の任期は、平成28年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成30年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 取締役近藤諭司・野間一平・岡崎哲也・小平健の任期は、平成27年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役井ノ上正男の任期は、平成25年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 監査役安形泰介・稲垣文美・大谷二郎の任期は、平成27年2月期に係る定時株主総会終結の時から平成31年2月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 7 監査役大谷二郎は、代表取締役社長大谷信義の弟であります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

(1) コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「日本の伝統芸能である歌舞伎の殿堂として、多くの人を楽しんでいただける快適な劇場環境を提供することにより、歌舞伎の維持・発展に貢献するとともに、健康で文化的な社会の実現に寄与する」という経営理念のもと、世界で唯一の歌舞伎専用劇場を保持し、歌舞伎と周辺事業の維持発展に寄与していくため、永続的、安定的な成長と企業価値の向上を目指し、以下のとおりコーポレート・ガバナンスに取り組んでおります。

(2) 企業統治の体制の概要とその体制を採用する理由

当社は監査役会制度を採用し、取締役会及び監査役会により業務執行の監督及び監査を行っております。

取締役会は、有価証券報告書提出日(平成28年5月26日)現在において取締役8名で構成され、うち3名は社外取締役であります。取締役会は、経営方針、法令・定款で定められた事項及びその他重要な事項を決定し、業務執行の監督を行っております。

監査役会は、有価証券報告書提出日(平成28年5月26日)現在において監査役4名で構成され、うち3名は社外監査役であります。監査役会は、社外監査役の強固な独立性と専門性、また、常勤監査役の常勤者としての特性を踏まえた情報収集力などの機能を有機的に組み合わせ、実効性の高い監査を行っております。

当社は、長期的な企業価値向上を実現するためには、迅速な意思決定に加え、経営の透明性の確保と経営に対する監督機能の充実が必要と考えております。

従いまして、取締役会は、社業に精通している取締役と客観性・公平性を有する社外取締役で構成し、当社の現状に即した少人数の体制とすることにより、効率的な業務執行と客観的な経営監督を行います。

また、公正で適法な企業活動に資するため、法務上の面については、複数の弁護士事務所と顧問契約を結び必要な助言・指導を得ており、会計監査については、監査法人から必要な監査を受ける一方、監査役が会計監査人と常に連携・協調を図り監査の質の向上に努めております。

(3) 内部統制システムの整備状況、リスク管理体制の整備状況

平成27年5月の会社法改正に伴い、「内部統制システムの構築に関する基本方針」を取締役会決議で一部修正いたしました。今後も単に体制を構築するだけでなく、現実の有効に機能させるために常に見直しを行い、グループ全体への浸透と統一化を図って参ります。

1 職務の執行が法令・定款に適合し、効率性を確保するための体制

イ、「伝統文化である歌舞伎の維持、発展への寄与と堅実経営」の企業理念のもと、定期的に経営方針の見直しを図ります。

ロ、業務執行においては、弁護士や税理士など社外専門家の意見聴取を徹底し、また、社外専門家に対し常に社内情報をオープンにすることで、合理性・適法性の確保を図ります。

ハ、適宜、コンプライアンスに関する教育研修を行い、法令遵守の企業風土を形成し、また、外部の弁護士との間に内部通報のラインを設け、適切な措置を施せる体制を整備いたします。

ニ、業務が効率的に行えるよう、フラットな組織構成で、職務分掌と責任・権限が明確な職制とし、事業の推移に即応できる体制を整備いたします。

2 情報の保存・管理に関する体制

文書管理、稟議・決裁に関する規程に基づき、議事録、稟議書、契約書、重要書類、関係資料等を適切に保存・管理し、また、情報システム管理に関する規程に基づき、グループ全体で情報ネットワークや情報データの管理と安全性確保に努めます。

3 損失の危機管理に関する体制

事業推進に伴うリスク管理については、特に自然災害、事故、衛生管理、情報リスク等に関し、当社グループ一体でリスク管理に関する規程に基づき実効性を保つよう努めます。

4 監査役の監査の実効性を確保するための体制

イ、監査役会は、定期的に取り締役や使用人からその職務に関する報告を受け、また、監査役は取締役会ほか重要会議に出席、その審議内容を直接聴取し、すべての経営情報を閲覧できる監査体制とします。

ロ、重大な法令・定款違反、不正行為や経営に重大な影響を及ぼす恐れのある事実等については、当社グループの取締役及び使用人は監査役会に適宜報告できる体制とする。なお、報告を理由に不利益な取扱いはいりません。

ハ、監査役会は、子会社の監査役等と密接な連携を図り、当社グループ全体の監査体制を強化し、また、監査法人との定期的な意見交換を行い、会計情報の適法性等について、常に監査法人との連携を図ります。

ニ、監査役の監査業務に際しては、必要に応じ適切な使用人に、取締役の指揮命令から独立して業務を遂行させることのできる体制とします。

5 反社会的勢力の排除に向けた基本的な考え方

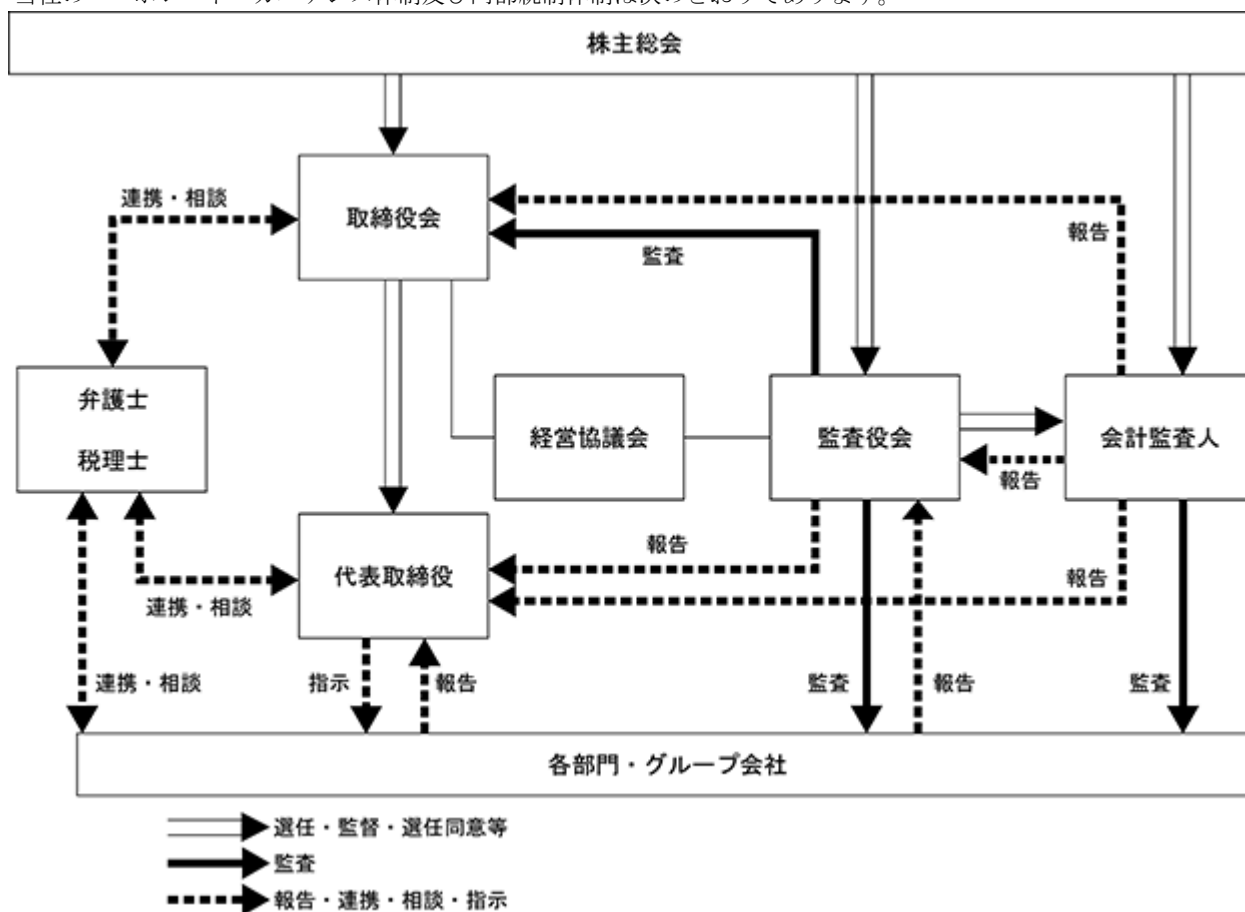
当社グループは、反社会的勢力と一切の関係を遮断し、反社会的勢力からの暴力的な要求や不当な要求に対しては、弁護士を含め警察他外部関係機関等と連携して組織的に対処します。

また、警察他外部関係機関等と連携し反社会的勢力に関する情報の共有に努め、総務部統括のもと当社グループ一体で対処します。

(4) 提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

内部統制システム構築の基本方針はグループ共通とし、単に体制を構築するだけでなく、現実に有効に機能させるために常に見直しを行い、グループ全体への浸透と統一化を図ります。

当社のコーポレート・ガバナンス体制及び内部統制体制は次のとおりであります。



(5) 責任限定契約の概要

当社と取締役(業務執行取締役等であるものを除く)及び監査役並びに会計監査人は、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令が定める額を上限としております。

② 監査役監査

監査役会は監査業務に際し、適切な使用人に、取締役の指揮命令系統から独立して、必要な業務を遂行させることができる体制とし、定期的に取り締役や使用人からその職務に関する報告を受けるとともに、監査役は重要な会議にすべて出席してその審議内容を直接聴取し、すべての経営情報を閲覧できる体制をとっております。

また監査役会は、会計監査人と定期的に意見交換を行い、会計情報の適正性について常に確認できる体制をとっております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は3名であります。

社外取締役岡崎哲也氏が常務取締役を務める松竹(株)は、当社の議決権の22.19%(同意している者の所有割合を含む。)を所有しているその他の関係会社であり、当社との事業上の取引等は、第5 経理の状況 1 [連結財務諸表等] (1) [連結財務諸表] [注記事項] [関連当事者情報] に記載しております。なお、同氏は長年にわたり演劇の製作や企画に携わっており、その専門的な知識、経験を当社の経営に活かしていただいております。

社外取締役小平健氏は、金融機関やホテル業界でのサービス業、また不動産賃貸業界における豊富な経験と経営者としての幅広い見地から、当社の経営やガバナンス体制に有効に貢献していただけるものと判断しております。なお、同氏は東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として届け出ております。

社外取締役松平誠氏は、ホテルや船舶クルーズ等のサービス業における豊富な経験と経営者としての幅広い見地から、当社の経営やガバナンス体制に有効に貢献していただけるものと判断しております。なお、同氏は東京証券取引所が指定を義務付ける一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として届け出ております。

当社の社外監査役は3名であります。

社外監査役である常勤監査役安形泰介氏は、当社のその他の関係会社である松竹(株)において、経営企画部門や広報部門における業務執行者であったことから、その豊富な経営企画や情報提供の経験・見識から、当社経営全般を十分に監視していただけるものと判断しております。

社外監査役である井ノ上正男氏は弁護士であり、法務の専門的な知識、経験から議案審議に必要な発言を適宜いただいております。

社外監査役である稲垣文美氏は、金融機関における長年の経験から経理・財務の知見を有し、他社における監査役経験とあわせ当社の監査に反映していただいております。なお、当社は東京証券取引所に対し、同氏を一般株主と利益相反が生じるおそれのない独立役員として届け出ております。

なお、当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準及び方針は明確に定めておりませんが、その選任にあたっては一般株主と利益相反が生じるおそれのないよう、東京証券取引所の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

④ 役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	91,320	91,320	—	—	—	5
監査役 (社外監査役を除く。)	1,800	1,800	—	—	—	1
社外役員	20,160	20,160	—	—	—	7

(注) 上記の報酬等及び員数には、当事業年度中に退任した監査役2名を含んでおります。

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

ハ 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針

取締役の報酬等の額は、株主総会の決議により承認された報酬限度額の範囲内で、役職、在任年数、財務状況等を勘案し決定しております。

監査役の報酬等の額は、株主総会の決議により承認された報酬限度額の範囲内で、監査役の協議により決定しております。

⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 7銘柄

貸借対照表計上額の合計額 77,938千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
北沢産業㈱	200,000	36,800	取引関係維持
㈱大和証券グループ本社	27,000	26,052	同上
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	14,390	11,191	同上
清水建設㈱	12,600	10,747	同上
㈱みずほフィナンシャルグループ	40,230	8,870	同上
㈱三井住友フィナンシャルグループ	693	3,298	同上

(注) 当社が保有する投資株式(非上場株式を除く)は10銘柄に満たないため、すべて表示しております。なお、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超える銘柄は、北沢産業㈱及び㈱大和証券グループ本社の2銘柄であります。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)	保有目的
北沢産業㈱	200,000	31,800	取引関係維持
㈱大和証券グループ本社	27,000	18,000	同上
清水建設㈱	12,600	10,810	同上
㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ	14,390	7,002	同上
㈱みずほフィナンシャルグループ	40,230	6,682	同上
㈱三井住友フィナンシャルグループ	693	2,192	同上

(注) 当社が保有する投資株式(非上場株式を除く)は10銘柄に満たないため、すべて表示しております。なお、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1を超える銘柄は、北沢産業㈱の1銘柄であります。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

会計監査につきましては、新創監査法人と監査契約を締結しており、当連結会計年度において会計監査業務を執行した公認会計士は、柳澤義一氏と高橋克典氏であります。また、会計監査業務に係る補助者は公認会計士2名、会計士試験合格者1名であります。

⑦ 取締役会で決議できる株主総会決議事項

(1) 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

(2) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、取締役及び監査役が期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役(取締役であった者を含む。)及び監査役(監査役であったものを含む。)の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

(3) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年8月31日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款で定めております。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は9名以内とする旨を定款で定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	19,500	—	19,500	—
連結子会社	—	—	—	—
計	19,500	—	19,500	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査報酬の額は監査日数及び監査計画等の内容を勘案して決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成27年3月1日から平成28年2月29日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成27年3月1日から平成28年2月29日まで)の財務諸表について、新創監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しており、会計専門誌の定期購読や監査法人及び専門情報を有する各種団体等の開催するセミナー等に参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,266,916	985,506
受取手形及び売掛金	26,590	22,544
たな卸資産	※1 36,479	※1 39,279
繰延税金資産	15,302	21,856
その他	37,927	40,187
貸倒引当金	△239	△256
流動資産合計	1,382,976	1,109,117
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,573,150	12,509,122
減価償却累計額	△1,377,011	△1,834,817
建物及び構築物（純額）	※2 11,196,138	※2 10,674,305
機械装置及び運搬具	258,168	248,735
減価償却累計額	△62,671	△87,704
機械装置及び運搬具（純額）	※2 195,497	※2 161,030
工具、器具及び備品	312,865	277,219
減価償却累計額	△145,545	△198,534
工具、器具及び備品（純額）	※2 167,319	※2 78,684
土地	※2 6,238,098	※2 6,238,098
リース資産	27,633	27,633
減価償却累計額	△8,827	△13,433
リース資産（純額）	18,806	14,200
有形固定資産合計	17,815,860	17,166,319
無形固定資産		
借地権	※2 2,613,299	※2 2,613,299
商標権	422	284
施設利用権	14,088	12,998
ソフトウェア	17,474	8,006
無形固定資産合計	2,645,284	2,634,588
投資その他の資産		
投資有価証券	※2 5,580,454	※2 4,875,948
長期前払費用	533,998	514,533
その他	30,584	98,586
貸倒引当金	△2,694	△2,694
投資その他の資産合計	6,142,343	5,486,375
固定資産合計	26,603,488	25,287,283
資産合計	27,986,464	26,396,401

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	210,043	181,536
1年内返済予定の長期借入金	※2 617,000	※2 617,000
未払金	200,191	77,548
未払費用	13,355	13,307
未払法人税等	22,385	20,479
未払消費税等	66,160	24,168
前受金	※2 396,739	※2 399,364
賞与引当金	22,704	26,354
その他	22,049	19,194
流動負債合計	1,570,629	1,378,952
固定負債		
長期借入金	※2 1,243,000	※2 626,000
長期未払金	117,270	115,770
長期前受金	※2 13,785,637	※2 13,492,828
繰延税金負債	939,689	714,177
退職給付に係る負債	47,182	58,698
長期預り保証金	80,779	75,660
その他	14,910	10,074
固定負債合計	16,228,470	15,093,209
負債合計	17,799,099	16,472,162
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,365,180	2,365,180
資本剰余金	3,256,671	3,256,671
利益剰余金	3,221,031	3,353,250
自己株式	△277,398	△279,880
株主資本合計	8,565,484	8,695,221
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,621,880	1,229,016
その他の包括利益累計額合計	1,621,880	1,229,016
純資産合計	10,187,364	9,924,238
負債純資産合計	27,986,464	26,396,401

② 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 3月 1日 至 平成27年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 平成27年 3月 1日 至 平成28年 2月 29日)
売上高	4,530,146	4,189,262
売上原価	3,544,381	3,248,611
売上総利益	985,764	940,651
販売費及び一般管理費		
人件費	308,250	325,970
賞与引当金繰入額	10,779	13,027
退職給付費用	6,343	9,453
租税公課	18,788	19,379
減価償却費	6,294	6,722
その他の経費	155,693	144,392
販売費及び一般管理費合計	506,151	518,945
営業利益	479,613	421,705
営業外収益		
受取利息	317	290
受取配当金	22,235	22,377
雑収入	14,152	10,554
営業外収益合計	36,705	33,222
営業外費用		
支払利息	27,476	19,944
有形固定資産除却損	345	2,493
雑損失	2,906	847
営業外費用合計	30,728	23,284
経常利益	485,590	431,642
特別損失		
減損損失	-	※1 119,282
特別損失合計	-	119,282
税金等調整前当期純利益	485,590	312,359
法人税、住民税及び事業税	55,780	40,030
法人税等調整額	135,432	79,576
法人税等合計	191,213	119,607
少数株主損益調整前当期純利益	294,377	192,752
当期純利益	294,377	192,752

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)
少数株主損益調整前当期純利益	294,377	192,752
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	839,407	△392,863
その他の包括利益合計	※1 839,407	※1 △392,863
包括利益	1,133,785	△200,110
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,133,785	△200,110

③ 【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,365,180	3,256,671	2,987,190	△275,256	8,333,784
当期変動額					
剰余金の配当			△60,536		△60,536
当期純利益			294,377		294,377
自己株式の取得				△2,142	△2,142
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	—	233,841	△2,142	231,699
当期末残高	2,365,180	3,256,671	3,221,031	△277,398	8,565,484

(単位：千円)

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	782,472	782,472	9,116,257
当期変動額			
剰余金の配当			△60,536
当期純利益			294,377
自己株式の取得			△2,142
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	839,407	839,407	839,407
当期変動額合計	839,407	839,407	1,071,107
当期末残高	1,621,880	1,621,880	10,187,364

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,365,180	3,256,671	3,221,031	△277,398	8,565,484
当期変動額					
剰余金の配当			△60,533		△60,533
当期純利益			192,752		192,752
自己株式の取得				△2,481	△2,481
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	132,218	△2,481	129,737
当期末残高	2,365,180	3,256,671	3,353,250	△279,880	8,695,221

(単位：千円)

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計	
当期首残高	1,621,880	1,621,880	10,187,364
当期変動額			
剰余金の配当			△60,533
当期純利益			192,752
自己株式の取得			△2,481
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△392,863	△392,863	△392,863
当期変動額合計	△392,863	△392,863	△263,126
当期末残高	1,229,016	1,229,016	9,924,238

④ 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年 3月 1日 至 平成27年 2月 28日)	当連結会計年度 (自 平成27年 3月 1日 至 平成28年 2月 29日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	485,590	312,359
減価償却費	552,676	554,932
減損損失	-	119,282
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△84	17
賞与引当金の増減額 (△は減少)	4,439	3,650
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	4,067	11,515
受取利息及び受取配当金	△22,552	△22,667
支払利息	27,476	19,944
有形固定資産除却損	345	2,493
売上債権の増減額 (△は増加)	8,345	4,045
たな卸資産の増減額 (△は増加)	21,737	△2,799
仕入債務の増減額 (△は減少)	△53,250	△28,507
長期未払金の増減額 (△は減少)	-	△1,500
長期前受金の増減額 (△は減少)	△292,809	△292,809
長期預り保証金の増減額 (△は減少)	△299	△5,119
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△15,440	△41,789
その他	141,730	△107,510
小計	861,973	525,535
利息及び配当金の受取額	22,552	22,667
利息の支払額	△27,459	△19,991
法人税等の支払額	△114,823	△40,427
営業活動によるキャッシュ・フロー	742,242	487,784
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△175,670	△17,314
無形固定資産の取得による支出	△7,603	-
保険積立金の払戻による収入	2,256	-
その他	-	△68,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△181,016	△85,314
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△617,000	△617,000
自己株式の取得による支出	△2,142	△2,481
リース債務の返済による支出	△4,835	△4,835
配当金の支払額	△59,491	△59,583
その他	17	20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△683,452	△683,879
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△122,226	△281,410
現金及び現金同等物の期首残高	1,389,142	1,266,916
現金及び現金同等物の期末残高	※1 1,266,916	※1 985,506

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数 1社

連結子会社の名称

歌舞伎座サービス㈱

2 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は連結決算日と一致しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

② たな卸資産

先入先出法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産

リース資産以外の有形固定資産

定額法を採用しております。なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

また、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8年～50年

機械装置及び運搬具 2年～11年

工具、器具及び備品 3年～20年

② 無形固定資産

リース資産以外の無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討して回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社及び連結子会社は、退職給付に係る負債及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(5) 重要なヘッジ会計の方法

① ヘッジ会計の方法

金利スワップ取引について特例処理を採用しております。

② ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段 金利スワップ取引

ヘッジ対象 借入金

③ ヘッジ方針

金利変動による収益への影響をヘッジする目的で金利スワップ取引を行う方針であり、投機目的の取引は行っておりません。

また、ヘッジ手段の想定元本等が一致しており、金利スワップの特例処理の要件に該当すると判定されることをもって有効性の判定に代えております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式を採用しております。なお、控除対象外消費税等は当連結会計年度の費用として処理しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成27年12月28日)

(1) 概要

繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いについて、監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」の枠組み、すなわち企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積る枠組みを基本的に踏襲した上で、以下の取扱いについて必要な見直しが行われております。

- ①(分類1)から(分類5)に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い
- ②(分類2)及び(分類3)に係る分類の要件
- ③(分類2)に該当する企業におけるスケジューリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い
- ④(分類3)に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い
- ⑤(分類4)に係る分類の要件を満たす企業が(分類2)又は(分類3)に該当する場合の取扱い

(2) 適用予定日

平成30年2月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

連結財務諸表に与える影響につきましては、現時点において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

※1 たな卸資産の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
商品及び製品	25,856千円	31,018千円
原材料及び貯蔵品	10,622千円	8,260千円

※2 担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

① 担保に供している資産

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
建物及び構築物	10,680,525千円	10,257,238千円
機械装置及び運搬具	182,878千円	161,030千円
工具、器具及び備品	43,933千円	4,602千円
土地	3,745,504千円	3,745,504千円
借地権	2,604,527千円	2,604,527千円
投資有価証券	4,245,648千円	3,715,888千円
計	21,503,017千円	20,488,792千円

上記資産以外に劇場歌舞伎座賃料請求権等

② 担保付債務

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	617,000千円	617,000千円
前受金	328,353千円	328,353千円
長期借入金	1,243,000千円	626,000千円
長期前受金	13,785,637千円	13,492,828千円
計	15,973,991千円	15,064,181千円

(連結損益計算書関係)

※1 減損損失

前連結会計年度(自平成26年3月1日至平成27年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成27年3月1日至平成28年2月29日)

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額(千円)
東京都中央区	食堂・飲食等	建物及び構築物、 機械装置及び運搬具、 その他	119,282

当社グループは、事業セグメントを基準として資産のグルーピングを実施しております。

連結子会社の歌舞伎座サービス株式会社の運営する上記の食堂・飲食等事業資産につきましては、収益性の低下により帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

減損損失の内訳は、建物及び構築物が71,718千円、機械装置及び運搬具が10,183千円、その他が37,381千円であります。

回収可能価額は使用価値により測定しておりますが、見積り将来キャッシュ・フローの金額がマイナスのため、備忘価額により評価しております。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)
	その他有価証券評価差額金	
当期発生額	1,303,206千円	△704,505千円
組替調整額	—千円	—千円
税効果調整前	1,303,206千円	△704,505千円
税効果額	△463,798千円	311,641千円
その他有価証券評価差額金	839,407千円	△392,863千円
その他の包括利益合計	839,407千円	△392,863千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,170,000	—	—	12,170,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	62,769	450	—	63,219

(変動事由の概要)

増加数の内訳は次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 450株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年5月29日 定時株主総会	普通株式	60,536	5	平成26年2月28日	平成26年5月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	60,533	5	平成27年2月28日	平成27年5月29日

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,170,000	—	—	12,170,000

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	63,219	495	—	63,714

(変動事由の概要)

増加数の内訳は次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 495株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年5月28日 定時株主総会	普通株式	60,533	5	平成27年2月28日	平成27年5月29日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年5月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	60,531	5	平成28年2月29日	平成28年5月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)
現金及び預金	1,266,916千円	985,506千円
現金及び現金同等物	1,266,916千円	985,506千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

・有形固定資産 劇場歌舞伎座における電話交換機(工具、器具及び備品)であります。

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(借主側)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
1年以内	208,780	202,416
1年超	10,732,020	10,529,604
合計	10,940,801	10,732,020

(貸主側)

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
1年以内	848,931	848,931
1年超	34,350,644	33,501,713
合計	35,199,575	34,350,644

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用については安全性の高い金融資産に限定しており、資金調達については、主に銀行等金融機関からの借入により資金を調達しております。デリバティブは、借入金の金利変動リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。また、投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である買掛金は、そのほとんどが3ヶ月以内の支払期日であります。長期借入金は、主に設備投資に係る資金調達であり、そのうち変動金利の借入金については、金利の変動リスクを回避するためデリバティブ取引(金利スワップ取引)を利用して金利を固定化しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

売掛金の顧客信用リスクに関しては、当社及び当社の連結子会社の社内規定に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、必要に応じて取引先信用状況を把握する体制をとっております。

投資有価証券については、四半期ごとに時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

デリバティブ取引の利用にあたっては、借入金の支払利息の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引等に限定し、その契約先は信用度の高い金融機関に限定することにより、相手先の債務不履行によるリスクはほとんど発生しないと認識しております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社グループでは各社が月次に資金繰計画表を作成・更新するとともに、借入金台帳を整備し、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、重要性に乏しいものについては省略しております。また、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めておりません。

前連結会計年度(平成27年2月28日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1)現金及び預金	1,266,916	1,266,916	—
(2)売掛金	26,590		
貸倒引当金(※)	△239		
	26,351	26,351	—
(3)投資有価証券			
その他有価証券	5,577,656	5,577,656	—
資産計	6,870,923	6,870,923	—
(1)買掛金	210,043	210,043	—
(2)長期借入金(1年内返済予定のものを含む)	1,860,000	1,863,529	3,529
負債計	2,070,043	2,073,573	3,529

(※) 売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

預金並びに売掛金はすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券については、取引所の価格によっております。投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

負債

(1) 買掛金

買掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金(1年内返済予定のものを含む)

長期借入金(1年内返済予定のものを含む)の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

当連結会計年度(平成28年2月29日)

(単位:千円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	985,506	985,506	—
(2) 売掛金	22,544		
貸倒引当金 (※)	△256		
	22,288	22,288	—
(3) 投資有価証券			
その他有価証券	4,873,150	4,873,150	—
資産計	5,880,945	5,880,945	—
(1) 買掛金	181,536	181,536	—
(2) 長期借入金(1年内返済予定のものを含む)	1,243,000	1,248,132	5,132
負債計	1,424,536	1,429,668	5,132

(※) 売掛金に計上している貸倒引当金を控除しております。

金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 売掛金

預金並びに売掛金はすべて短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

投資有価証券については、取引所の価格によっております。投資有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記をご参照下さい。

負債

(1) 買掛金

買掛金は短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(2) 長期借入金(1年内返済予定のものを含む)

長期借入金(1年内返済予定のものを含む)の時価については、元利金の合計額を新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(注) 1 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位:千円)

区分	平成27年2月28日	平成28年2月29日
非上場株式	2,798	2,798

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(注) 2 借入金の連結決算日後の返済予定額
前連結会計年度(平成27年2月28日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金 (1年内返済予定のものを含む)	617,000	617,000	626,000	—	—	—

当連結会計年度(平成28年2月29日)

(単位:千円)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
長期借入金 (1年内返済予定のものを含む)	617,000	626,000	—	—	—	—

(有価証券関係)

その他有価証券

前連結会計年度(平成27年2月28日)

	区分	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	5,537,557	3,015,269	2,522,288
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	40,098	42,061	△1,962
合計		5,577,656	3,057,330	2,520,325

当連結会計年度(平成28年2月29日)

	区分	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	4,832,475	3,008,457	1,824,018
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	40,674	48,873	△8,198
合計		4,873,150	3,057,330	1,815,819

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引
該当事項はありません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引
金利関連

前連結会計年度(平成27年2月28日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 受取変動・支払固定	長期借入金	1,575,000	1,050,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

当連結会計年度(平成28年2月29日)

ヘッジ会計の方法	取引の種類	主なヘッジ 対象	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超(千円)	時価 (千円)
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 受取変動・支払固定	長期借入金	1,050,000	525,000	(注)

(注) 金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている長期借入金と一体として処理されているため、その時価は、当該長期借入金の時価に含めて記載しております。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び連結子会社は確定給付型の制度として、退職一時金制度を設けております。

なお、当社及び連結子会社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	前連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)
退職給付に係る負債の期首残高	43,114	47,182
退職給付費用	6,229	11,515
退職給付の支払額	△2,161	—
退職給付に係る負債の期末残高	47,182	58,698

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

(千円)

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
非積立型制度の退職給付債務	47,182	58,698
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	47,182	58,698
退職給付に係る負債	47,182	58,698
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	47,182	58,698

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前連結会計年度 6,229千円 当連結会計年度 11,515千円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
繰延税金資産		
賞与引当金	8,168千円	9,159千円
未払事業税	4,470千円	2,545千円
退職給付に係る負債	16,841千円	19,324千円
役員退職慰労引当金	41,795千円	37,347千円
建物等解体費用	31,995千円	28,079千円
繰越欠損金	508,524千円	357,759千円
減損損失	—	42,178千円
その他	5,676千円	5,687千円
繰延税金資産小計	617,472千円	502,081千円
評価性引当額	—	△18,293千円
繰延税金資産合計	617,472千円	483,787千円
繰延税金負債		
特定資産買換積立金	△625,628千円	△571,519千円
その他有価証券評価差額金	△898,444千円	△586,803千円
未実現損失	△17,785千円	△17,785千円
繰延税金負債合計	△1,541,858千円	△1,176,108千円
繰延税金負債の純額	△924,386千円	△692,321千円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産又は繰延税金負債の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
流動資産—繰延税金資産	15,302千円	21,856千円
固定負債—繰延税金負債	939,689千円	714,177千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
法定実効税率	—	35.64%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—	0.76%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	—	△2.32%
住民税均等割	—	0.79%
評価性引当額	—	5.90%
税率変更による期末繰延税金負債の減額修正	—	△3.71%
その他	—	1.23%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	38.29%

(注) 前連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.64%から、平成28年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については33.06%に、平成29年3月1日以後に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については32.26%に変更されております。

この税率の変更により、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が69,051千円、法人税等調整額が8,548千円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が60,503千円増加しております。

4 連結決算日後の法人税等の税率の変更

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は当連結会計年度の32.26%から、平成29年3月1日に開始する連結会計年度及び平成30年3月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については30.86%に、平成31年3月1日以後に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については30.62%に変更されます。

なお、変更後の法定実効税率を当連結会計年度末に適用した場合、繰延税金負債の金額（繰延税金資産の金額を控除した金額）が38,890千円、法人税等調整額が9,397千円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が29,493千円増加することとなります。

（企業結合等関係）

該当事項はありません。

（資産除去債務関係）

連結貸借対照表に計上していない資産除去債務

当社及び子会社は、事務所、店舗等において不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関する賃借資産の使用期間が明確でなく、現在のところ解約等も予定されていないことから、資産除去債務を合理的に見積もることができません。そのため、当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。また、それ以外のものについては、重要性に鑑み、資産除去債務を計上しておりません。

（賃貸等不動産関係）

当社及び子会社は、東京都及びその他の地域において、賃貸収入を得ることを目的として賃貸商業施設や賃貸住宅等を所有しております。これら賃貸等不動産に関する連結貸借対照表計上額及び期中における主な変動並びに連結決算日における時価及び当該時価の算定方法は以下のとおりであります。

（単位：千円）

		前連結会計年度 (自平成26年3月1日 至平成27年2月28日)		当連結会計年度 (自平成27年3月1日 至平成28年2月29日)	
賃貸等不動産	連結貸借対照表 計上額	期首残高	2,707,841	2,684,603	
		期中増減額	△23,238	△23,239	
		期末残高	2,684,603	2,661,363	
	期末時価	2,198,510	2,223,885		
賃貸等不動産として 使用される部分を含 む不動産	連結貸借対照表 計上額	期首残高	17,524,326	17,227,491	
		期中増減額	△296,834	△446,191	
		期末残高	17,227,491	16,781,299	
	期末時価	43,534,000	45,485,000		

(注) 1 連結貸借対照表計上額は、取得価額から減価償却累計額を控除した金額であります。

2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増減は、劇場歌舞伎座に係る不動産取得税の計上等による増加(153,975千円)、減価償却による減少(474,048千円)であります。
当連結会計年度の主な増減は、減価償却による減少(476,081千円)であります。

3 時価の算定方法

当連結会計年度末の時価は、主要な物件については社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価に基づく金額、その他の物件については一定の評価額に基づいて自社で算定した金額であります。

また、上記賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は次のとおりであります。

（単位：千円）

		前連結会計年度 (自平成26年3月1日 至平成27年2月28日)		当連結会計年度 (自平成27年3月1日 至平成28年2月29日)	
賃貸等不動産	賃貸収益	186,334	184,983		
	賃貸費用	52,745	52,676		
	差額	133,589	132,306		
賃貸等不動産として 使用される部分を含 む不動産	賃貸収益	1,682,245	1,694,017		
	賃貸費用	1,226,462	1,241,792		
	差額	455,783	452,225		

(注) 賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産には、サービスの提供及び経営管理として当社及び子会社が使用している部分も含むため、当該部分の賃貸収益は計上されておられません。なお、当該不動産に係る費用(保険料、借地料、租税公課、管理費、減価償却費等)については、賃貸費用に含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「不動産賃貸事業」、「食堂・飲食事業」及び「売店事業」を営んでおり、これを当社グループの報告セグメントとしております。

「不動産賃貸事業」は、土地及び店舗等の賃貸を行っております。

「食堂・飲食事業」は、食堂・飲食店舗の運営を行っております。

「売店事業」は、土産物などの販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であります。セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額(注2)
	不動産賃貸 事業	食堂・飲食 事業	売店事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,868,580	1,003,092	1,658,473	4,530,146	—	4,530,146
セグメント間の内部 売上高又は振替高	199,084	1,053	1,072	201,210	△201,210	—
計	2,067,664	1,004,145	1,659,545	4,731,356	△201,210	4,530,146
セグメント利益又は損失(△)	788,445	△66,820	221,250	942,874	△463,261	479,613
セグメント資産	20,625,562	186,059	107,826	20,919,448	7,067,016	27,986,464
その他の項目						
減価償却費	516,457	21,576	8,347	546,381	6,294	552,676
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	152,817	5,462	2,025	160,305	10,854	171,159

(注) 1 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△463,261千円は、セグメント間取引消去△22,207千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△441,053千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額7,067,016千円の主なものは、余剰運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券等)及び管理部門に係る資産等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	連結財務諸表 計上額(注2)
	不動産賃貸 事業	食堂・飲食 事業	売店事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,879,001	950,011	1,360,249	4,189,262	—	4,189,262
セグメント間の内部 売上高又は振替高	183,434	1,143	1,110	185,689	△185,689	—
計	2,062,435	951,155	1,361,360	4,374,951	△185,689	4,189,262
セグメント利益又は損失(△)	767,941	△27,855	150,605	890,690	△468,985	421,705
セグメント資産	20,097,751	54,240	100,045	20,252,036	6,144,364	26,396,401
その他の項目						
減価償却費	518,548	21,122	8,538	548,209	6,722	554,932
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	9,786	3,103	404	13,295	3,176	16,471

(注) 1 調整額の内容は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益又は損失(△)の調整額△468,985千円は、セグメント間取引消去△22,504千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△446,480千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(2) セグメント資産の調整額6,144,364千円の主なものは、余剰運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券等)及び管理部門に係る資産等であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
KSビルキャピタル特定目的会社	719,331	不動産賃貸事業
松竹株式会社	952,893	不動産賃貸事業、食堂・飲食事業、売店事業

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
KSビルキャピタル特定目的会社	719,331	不動産賃貸事業
松竹株式会社	944,655	不動産賃貸事業、食堂・飲食事業、売店事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

(単位：千円)

	報告セグメント				全社・消去	合計
	不動産賃貸事業	食堂・飲食事業	売店事業	計		
減損損失	—	119,282	—	119,282	—	119,282

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る。)等

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

種類	会社等の名称 (所在地)	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係	
その他の 関係会社	松竹㈱ (東京都中央区)	33,018,656	映画等の製作・配給、演劇の 製作・興行並びに不動産の賃 貸・管理等	所有	土地の賃借及び建物の賃貸 その他 役員の兼任	
				直接		
		間接	0.06			
		被所有	14.46 (7.75)			
		直接				
	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)		
営業取引	建物の賃貸	175,882	土地の賃借	前受金	56,912	
				流動資産その他	7,940	
				長期前払費用	333,338	
				未払費用	13,207	
	その他の営業費用	36,497	未払金	17,663		

(注) 1 議決権等の所有割合の()内は、同意している者の所有割合で外数であります。

2 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高(土地の賃借に係るものを除く)は消費税等を含んで表示しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 建物の賃貸、土地の賃借については、近隣の取引実勢を参考にして、契約により所定の金額を決定しております。
- 2 その他の営業費用については、一般的取引を勘案して決定しております。

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

種類	会社等の名称 (所在地)	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係	
その他の 関係会社	松竹㈱ (東京都中央区)	33,018,656	映画等の製作・配給、演劇の 製作・興行並びに不動産の賃 貸・管理等	所有	土地の賃借及び建物の賃貸 その他 役員の兼任	
				直接		
		間接	0.06			
		被所有	14.45 (7.74)			
		直接				
	取引内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)		
営業取引	建物の賃貸	175,882	土地の賃借	前受金	57,074	
				流動資産その他	7,940	
				長期前払費用	326,258	
				未払費用	13,207	
	その他の営業費用	40,788	未払金	22,893		

(注) 1 議決権等の所有割合の()内は、同意している者の所有割合で外数であります。

2 上記金額のうち、取引金額は消費税等を含まず、期末残高(土地の賃借に係るものを除く)は消費税等を含んで表示しております。

取引条件及び取引条件の決定方針等

- 1 建物の賃貸、土地の賃借については、近隣の取引実勢を参考にして、契約により所定の金額を決定しております。
- 2 その他の営業費用については、一般的取引を勘案して決定しております。

兄弟会社等

前連結会計年度(自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)

種類	会社等の名称 (所在地)	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係				
その他の 関係会社 の子会社	K Sビルキャピタル特定目的会社 (東京都千代田区)	17,300,100	資産の流動化に関する法律に基づく資産流動化計画に従った特定資産の譲受け並びにその管理及び処分、その他前記特定資産の流動化に係る業務に付帯する業務	所有 — 被所有 —	土地の賃貸その他				
					取引内容		取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
					営業取引	土地の賃貸	719,331	前受金	328,353
					長期前受金	13,785,637			

取引条件及び取引条件の決定方針等

土地の賃貸については、鑑定評価額等を参考にして、契約により所定の金額を決定しております。

なお、提出会社は、K Sビルキャピタル特定目的会社並びに松竹㈱との間で下記の契約を締結しております。

(1) 定期借地権設定に係る契約

①契約先 K Sビルキャピタル特定目的会社及び松竹㈱

②契約期間 平成22年3月30日より53年間

なお、K Sビルキャピタル特定目的会社より53年間の地代の一部を前受地代として受領し、松竹㈱へは53年間の地代の一部を前払地代として支払っております。

(2) 上記定期借地権設定契約に係る担保権設定契約

①契約先 K Sビルキャピタル特定目的会社

②契約名称 抵当権設定契約、借地権質権設定契約、債権質権設定契約

③被担保債権 定期借地権設定契約に基づく前払地代返還請求権

④担保提供資産 土地、建物、借地権及び劇場賃料請求権

当連結会計年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

種類	会社等の名称 (所在地)	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係				
その他の 関係会社 の子会社	K Sビルキャピタル特定目的会社 (東京都千代田区)	17,300,100	資産の流動化に関する法律に基づく資産流動化計画に従った特定資産の譲受け並びにその管理及び処分、その他前記特定資産の流動化に係る業務に付帯する業務	所有 — 被所有 —	土地の賃貸その他				
					取引内容		取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
					営業取引	土地の賃貸	719,331	前受金	328,353
					長期前受金	13,492,828			

取引条件及び取引条件の決定方針等

土地の賃貸については、鑑定評価額等を参考にして、契約により所定の金額を決定しております。

なお、提出会社は、K Sビルキャピタル特定目的会社並びに松竹㈱との間で下記の契約を締結しております。

(1) 定期借地権設定に係る契約

①契約先 K Sビルキャピタル特定目的会社及び松竹㈱

②契約期間 平成22年3月30日より53年間

なお、K Sビルキャピタル特定目的会社より53年間の地代の一部を前受地代として受領し、松竹㈱へは53年間の地代の一部を前払地代として支払っております。

(2) 上記定期借地権設定契約に係る担保権設定契約

①契約先 K Sビルキャピタル特定目的会社

②契約名称 抵当権設定契約、借地権質権設定契約、債権質権設定契約

③被担保債権 定期借地権設定契約に基づく前払地代返還請求権

④担保提供資産 土地、建物、借地権及び劇場賃料請求権

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)
1株当たり純資産額	841円46銭	819円76銭
1株当たり当期純利益金額	24円31銭	15円92銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日)	当連結会計年度 (自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)
連結損益計算書上の当期純利益金額(千円)	294,377	192,752
普通株式に係る当期純利益金額(千円)	294,377	192,752
普通株式の期中平均株式数(株)	12,106,860	12,106,615

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成27年2月28日)	当連結会計年度 (平成28年2月29日)
連結貸借対照表の純資産の部の合計額(千円)	10,187,364	9,924,238
普通株式に係る純資産額(千円)	10,187,364	9,924,238
普通株式の発行済株式数(株)	12,170,000	12,170,000
普通株式の自己株式数(株)	63,219	63,714
1株当たり純資産額の算定に用いられた 普通株式の数(株)	12,106,781	12,106,286

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金	617,000	617,000	1.22	—
1年以内に返済予定のリース債務	4,835	4,835	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	1,243,000	626,000	1.22	平成29年5月～ 平成30年2月
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	14,910	10,074	—	平成29年3月～ 平成31年3月
合計	1,879,746	1,257,910	—	—

- (注) 1 「平均利率」については、長期借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。
 なお、リース債務については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、「平均利率」を記載しておりません。
- 2 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	626,000	—	—	—
リース債務	4,835	4,835	402	—

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,032,619	2,087,776	3,168,055	4,189,262
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	108,136	226,739	344,783	312,359
四半期(当期)純利益金額 (千円)	88,652	167,157	244,190	192,752
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	7.32	13.81	20.17	15.92

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金 額(△) (円)	7.32	6.48	6.36	△4.25

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	535,287	279,673
売掛金	※2 9,840	※2 8,390
前払費用	14,418	14,370
繰延税金資産	5,662	5,612
その他	※2 22,385	※2 25,169
流動資産合計	587,593	333,215
固定資産		
有形固定資産		
建物	※1 10,866,457	※1 10,427,649
構築物	※1 38,524	※1 36,580
機械及び装置	※1 182,878	※1 161,030
工具、器具及び備品	※1 90,768	※1 52,487
土地	※1 5,720,978	※1 5,720,978
リース資産	18,806	14,200
有形固定資産合計	16,918,412	16,412,926
無形固定資産		
借地権	※1 2,613,299	※1 2,613,299
施設利用権	14,088	12,998
ソフトウェア	6,908	5,322
無形固定資産合計	2,634,296	2,631,619
投資その他の資産		
投資有価証券	98,410	77,938
関係会社株式	※1 5,487,844	※1 4,815,564
出資金	50	50
長期前払費用	532,626	513,946
その他	6,000	74,000
投資その他の資産合計	6,124,931	5,481,499
固定資産合計	25,677,639	24,526,046
資産合計	26,265,233	24,859,261

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
負債の部		
流動負債		
1年内返済予定の長期借入金	※1 617,000	※1 617,000
未払金	※2 158,997	※2 51,716
未払費用	※2 13,355	※2 13,307
未払配当金	3,602	3,446
未払法人税等	16,467	18,921
未払消費税等	42,934	16,441
前受金	※1 401,555	※1 401,553
預り金	※2 2,933	※2 3,386
賞与引当金	5,537	6,909
その他	4,864	4,902
流動負債合計	1,267,248	1,137,584
固定負債		
長期借入金	※1 1,243,000	※1 626,000
長期未払金	117,270	115,770
長期前受金	※1 13,785,637	※1 13,492,828
繰延税金負債	833,230	632,987
退職給付引当金	41,411	46,175
長期預り保証金	58,055	58,055
その他	14,910	10,074
固定負債合計	16,093,516	14,981,892
負債合計	17,360,764	16,119,477
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,365,180	2,365,180
資本剰余金		
資本準備金	2,405,394	2,405,394
その他資本剰余金	806	806
資本剰余金合計	2,406,200	2,406,200
利益剰余金		
利益準備金	142,125	142,125
その他利益剰余金		
買換資産積立金	993,011	1,045,161
別途積立金	1,008,800	1,008,800
繰越利益剰余金	673,548	844,787
利益剰余金合計	2,817,485	3,040,873
自己株式	△277,743	△280,225
株主資本合計	7,311,122	7,532,029
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,593,347	1,207,755
評価・換算差額等合計	1,593,347	1,207,755
純資産合計	8,904,469	8,739,784
負債純資産合計	26,265,233	24,859,261

② 【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成26年 3月 1日 至 平成27年 2月28日)	当事業年度 (自 平成27年 3月 1日 至 平成28年 2月29日)
売上高		
賃貸収入	※1 2,015,835	※1 2,011,912
売上原価		
賃貸原価	※1 1,259,014	※1 1,273,886
売上総利益	756,820	738,026
販売費及び一般管理費		
役員報酬	100,410	113,280
給料及び手当	50,233	68,138
賞与引当金繰入額	4,083	5,247
退職給付費用	2,354	2,702
交際費	2,306	1,940
租税公課	18,381	18,868
減価償却費	5,106	5,772
その他の経費	※1 141,486	※1 120,655
販売費及び一般管理費合計	324,362	336,604
営業利益	432,458	401,421
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 32,415	※1 32,523
雑収入	※1 10,689	※1 11,870
営業外収益合計	43,104	44,394
営業外費用		
支払利息	27,476	19,944
有形固定資産除却損	24	2,229
雑損失	2	2
営業外費用合計	27,504	22,176
経常利益	448,058	423,639
税引前当期純利益	448,058	423,639
法人税、住民税及び事業税	35,733	32,749
法人税等調整額	132,538	106,967
法人税等合計	168,271	139,717
当期純利益	279,787	283,922

【売上原価明細書】

賃貸原価明細

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年 3月 1日 至 平成27年 2月 28日)			当事業年度 (自 平成27年 3月 1日 至 平成28年 2月 29日)		
		金額(千円)		構成比 (%)	金額(千円)		構成比 (%)
1 人件費							
(1) 給料及び手当		19,032			18,930		
(2) 賞与引当金繰入額		1,454			1,662		
(3) 退職給付費用		1,907			2,061		
(4) 厚生保険料		3,864	26,258	2.1	3,706	26,360	2.1
2 諸経費							
(1) 保険料		6,695			6,380		
(2) 借地料		202,416			202,416		
(3) 租税公課		306,455			311,059		
(4) 管理費		188,853			187,175		
(5) その他		18,361	722,782	57.4	28,549	735,580	57.7
3 減価償却費			509,973	40.5		511,945	40.2
計			1,259,014	100.0		1,273,886	100.0

③ 【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成26年 3月 1日 至 平成27年 2月 28日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
					買換資産 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,365,180	2,405,394	806	2,406,200	142,125	993,011	1,008,800	454,297
当期変動額								
剰余金の配当								△60,536
当期純利益								279,787
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	—	—	—	—	—	—	—	219,250
当期末残高	2,365,180	2,405,394	806	2,406,200	142,125	993,011	1,008,800	673,548

(単位：千円)

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計					
当期首残高	2,598,234	△275,601	7,094,013	768,612	768,612	7,862,626
当期変動額						
剰余金の配当	△60,536		△60,536			△60,536
当期純利益	279,787		279,787			279,787
自己株式の取得		△2,142	△2,142			△2,142
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				824,734	824,734	824,734
当期変動額合計	219,250	△2,142	217,108	824,734	824,734	1,041,843
当期末残高	2,817,485	△277,743	7,311,122	1,593,347	1,593,347	8,904,469

当事業年度(自 平成27年3月1日 至 平成28年2月29日)

(単位：千円)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金		
					買換資産 積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	2,365,180	2,405,394	806	2,406,200	142,125	993,011	1,008,800	673,548
当期変動額								
剰余金の配当								△60,533
税率変更による 積立金の調整額						52,150		△52,150
当期純利益								283,922
自己株式の取得								
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)								
当期変動額合計	-	-	-	-	-	52,150	-	171,238
当期末残高	2,365,180	2,405,394	806	2,406,200	142,125	1,045,161	1,008,800	844,787

(単位：千円)

	株主資本			評価・換算差額等		純資産合計
	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
	利益剰余金 合計					
当期首残高	2,817,485	△277,743	7,311,122	1,593,347	1,593,347	8,904,469
当期変動額						
剰余金の配当	△60,533		△60,533			△60,533
税率変更による 積立金の調整額	-		-			-
当期純利益	283,922		283,922			283,922
自己株式の取得		△2,481	△2,481			△2,481
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)				△385,591	△385,591	△385,591
当期変動額合計	223,388	△2,481	220,907	△385,591	△385,591	△164,684
当期末残高	3,040,873	△280,225	7,532,029	1,207,755	1,207,755	8,739,784

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

リース資産以外の有形固定資産

定額法を採用しております。なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

また、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 3年～50年

(2) 無形固定資産

リース資産以外の無形固定資産

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

また、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間で均等償却する方法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

3 引当金の計上基準

(1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付の支給に備えるため、当期末における退職給付債務の見込額に基づき簡便法により計上しております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜き方式を採用しております。なお、控除対象外消費税等は当年度の費用として処理しております。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において「営業外費用」の「雑損失」に含めていた「有形固定資産除却損」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において「営業外費用」の「雑損失」に表示していた27千円は、「有形固定資産除却損」24千円、「雑損失」2千円に組み替えております。

(貸借対照表関係)

※1 担保に供している資産及び担保付債務は次のとおりであります。

① 担保に供している資産

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
建物	10,642,500千円	10,221,088千円
構築物	38,025千円	36,150千円
機械及び装置	182,878千円	161,030千円
工具、器具及び備品	43,933千円	4,602千円
土地	3,745,504千円	3,745,504千円
借地権	2,604,527千円	2,604,527千円
関係会社株式	4,245,648千円	3,715,888千円
計	21,503,017千円	20,488,792千円

上記資産以外に劇場歌舞伎座賃料請求権等

② 担保付債務

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
1年内返済予定の長期借入金	617,000千円	617,000千円
前受金	328,353千円	328,353千円
長期借入金	1,243,000千円	626,000千円
長期前受金	13,785,637千円	13,492,828千円
計	15,973,991千円	15,064,181千円

※2 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

区分表示されたもの以外で当該関係会社に対する金銭債権又は金銭債務の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
短期金銭債権	27,086千円	26,801千円
短期金銭債務	31,449千円	36,575千円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額。

	前事業年度 (自平成26年3月1日 至平成27年2月28日)	当事業年度 (自平成27年3月1日 至平成28年2月29日)
営業取引(収入分)	1,123,961千円	1,107,938千円
営業取引(支出分)	215,915千円	220,154千円
営業取引以外の取引(収入分)	35,616千円	35,513千円

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく時価を把握することが極めて困難と認められるため、子会社株式の時価を記載しておりません。また、関連会社株式はありません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位:千円)

区分	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
子会社株式	100,000	100,000

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別内訳

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
繰延税金資産		
賞与引当金	1,973千円	2,284千円
退職給付引当金	14,759千円	14,896千円
役員退職慰労引当金	41,795千円	37,347千円
未払事業税	2,891千円	2,513千円
投資有価証券評価損	1,513千円	1,370千円
建物等解体費用	31,995千円	28,079千円
繰越欠損金	508,524千円	357,759千円
その他	1,201千円	1,287千円
繰延税金資産合計	604,654千円	445,537千円
繰延税金負債		
特定資産買換積立金	△549,890千円	△497,739千円
その他有価証券評価差額金	△882,332千円	△575,172千円
繰延税金負債合計	△1,432,222千円	△1,072,912千円
繰延税金負債の純額	△827,567千円	△627,375千円

(注) 前事業年度及び当事業年度における繰延税金資産又は繰延税金負債の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
流動資産—繰延税金資産	5,662千円	5,612千円
固定負債—繰延税金負債	833,230千円	632,987千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成27年2月28日)	当事業年度 (平成28年2月29日)
法定実効税率	—	35.64%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	—	0.46%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	—	△1.69%
住民税均等割	—	0.45%
税率変更による繰延税金負債の減額修正	—	△1.84%
その他	—	△0.04%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—	32.98%

(注) 前事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第9号)及び「地方税法等の一部を改正する法律」(平成27年法律第2号)が平成27年3月31日に公布され、平成27年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の35.64%から、平成28年3月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については33.06%に、平成29年3月1日以後に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については32.26%に変更されております。

この税率の変更により、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が68,076千円、法人税等調整額が7,813千円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が60,262千円増加しております。

4 決算日後の法人税等の税率の変更

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成28年法律第15号)及び「地方税法等の一部を改正する等の法律」(平成28年法律第13号)が平成28年3月31日に公布され、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等が変更されることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は当事業年度の32.26%から、平成29年3月1日に開始する事業年度及び平成30年3月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.86%に、平成31年3月1日以後に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.62%に変更されます。

なお、変更後の法定実効税率を当事業年度末に適用した場合、繰延税金負債の金額(繰延税金資産の金額を控除した金額)が37,452千円、法人税等調整額が8,212千円それぞれ減少し、その他有価証券評価差額金が29,240千円増加することとなります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産						
建物	10,866,457	7,360	2,224	443,942	10,427,649	1,555,187
構築物	38,524	765	—	2,708	36,580	11,591
機械及び装置	182,878	750	—	22,597	161,030	67,623
工具、器具及び備品	90,768	2,910	4	41,186	52,487	126,747
土地	5,720,978	—	—	—	5,720,978	—
リース資産	18,806	—	—	4,605	14,200	13,433
有形固定資産計	16,918,412	11,785	2,229	515,041	16,412,926	1,774,582
無形固定資産						
借地権	2,613,299	—	—	—	2,613,299	—
施設利用権	14,088	—	—	1,089	12,998	3,269
ソフトウェア	6,908	—	—	1,586	5,322	2,280
無形固定資産計	2,634,296	—	—	2,676	2,631,619	5,550

(注) 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	劇場敷物貼替工事	5,000千円
	劇場客席手摺新設工事	930千円

当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	劇場敷物貼替工事に伴う除却	2,224千円
----	---------------	---------

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
賞与引当金	5,537	6,909	5,537	6,909

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	3月1日から2月末日まで		
定時株主総会	5月中		
基準日	2月末日		
剰余金の配当の基準日	8月31日 2月末日		
1単元の株式数	1,000株		
単元未満株式の買取り・買増し			
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部		
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社		
取次所	—		
手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額		
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告といたします。ただし、電子公告ができない事由が生じたときは、官報にて行います。 公告掲載URL http://www.kabuki-za.co.jp/annai/		
株主に対する特典	150株以上	450株未満	1・2階席 年1枚
	450株以上	750株未満	年3枚
	750株以上	1,000株未満	半年3枚
	1,000株以上	1,500株未満	半年4枚
	1,500株以上	2,000株未満	半年6枚
	2,000株以上	3,000株未満	半年8枚
3,000株以上	5,000株未満	半年12枚	
5,000株以上		半年18枚	
権利確定日および優待期間			
権利確定日		優待期間	
2月末日		6月興行～11月興行分	
8月31日		12月興行～翌年5月興行分	
会社指定日の内から「日・ステージ・席」を株主に予約して頂きます。			

(注) 当社の定款の定めにより、単元未満株主は、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 法令により定款をもってしても制限することができない権利
- (2) 株主割当による募集株式及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (3) 単元未満株式の売渡しを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類 並びに有価証券 報告書の確認書	事業年度 (第91期)	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日	平成27年5月28日 関東財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書 及びその添付書類	事業年度 (第91期)	自 平成26年3月1日 至 平成27年2月28日	平成27年5月28日 関東財務局長に提出。
(3) 四半期報告書及び 四半期報告書の 確認書	第92期 第1四半期	自 平成27年3月1日 至 平成27年5月31日	平成27年7月14日 関東財務局長に提出。
四半期報告書及び 四半期報告書の 確認書	第92期 第2四半期	自 平成27年6月1日 至 平成27年8月31日	平成27年10月13日 関東財務局長に提出。
四半期報告書及び 四半期報告書の 確認書	第92期 第3四半期	自 平成27年9月1日 至 平成27年11月30日	平成28年1月14日 関東財務局長に提出。
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条 第2項第9号の2(株主総会における議決権 行使の結果)の規定に基づく臨時報告書		平成27年5月29日 関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成28年 5月26日

株式会社歌舞伎座
取締役会 御中

新創監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柳 澤 義 一 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高 橋 克 典 ㊞

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社歌舞伎座の平成27年3月1日から平成28年2月29日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社歌舞伎座及び連結子会社の平成28年2月29日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社歌舞伎座の平成28年2月29日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社歌舞伎座が平成28年2月29日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年 5月26日

株式会社歌舞伎座
取締役会 御中

新創監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柳 澤 義 一 ㊞

指定社員
業務執行社員 公認会計士 高 橋 克 典 ㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社歌舞伎座の平成27年3月1日から平成28年2月29日までの第92期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社歌舞伎座の平成28年2月29日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

※1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年5月26日
【会社名】	株式会社歌舞伎座
【英訳名】	KABUKI-ZA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大谷信義
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座四丁目12番15号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長大谷信義は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について(意見書)」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しております。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものであります。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成28年2月29日を基準日として行われており、評価にあたっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しております。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制(全社的な内部統制)の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しております。当該業務プロセスの評価においては選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定いたしました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定いたしました。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、前連結会計年度の売上高(連結会社間取引消去後)の2/3に達している2事業拠点(2社)を「重要な事業拠点」といたしました。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象といたしました。さらに、選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しております。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断いたしました。

4 【付記事項】

該当事項はありません。

5 【特記事項】

該当事項はありません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年5月26日
【会社名】	株式会社歌舞伎座
【英訳名】	KABUKI-ZA CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 大谷信義
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	東京都中央区銀座四丁目12番15号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長大谷信義は、当社の第92期(自平成27年3月1日至平成28年2月29日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。